高齢農家等の経営継続に向けた普及指導活動

中部振興局
○佐藤　祐希

１　背景

当局では生乳生産量の増加を目的とした普及指導活動に取り組んでおり、規模拡大を目指す酪農経営体を対象に重点的に指導を実施してきた。その結果、１戸当たりの経産牛飼養頭数は順調に増加し、2016年時点で103頭となっている（図１）。

しかし、高齢化(後継者不在)や乳価低迷等を要因とする経営不振等の理由で、2011年の23戸から2016年の11戸まで減少した酪農家分の飼養頭数、出荷乳量をカバーすることは難しく、管内の飼養頭数、出荷乳量ともに年々減少しているのが現状である（図２）。

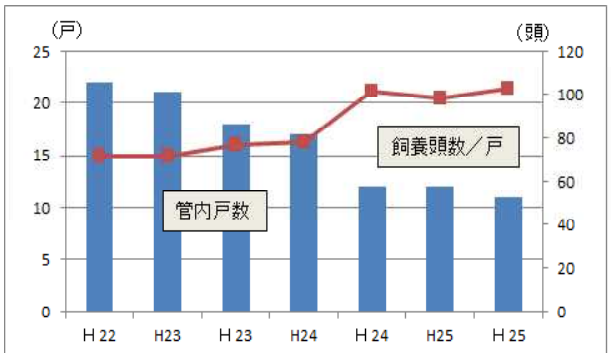

図1　中部管内の酪農家戸数と飼養頭数

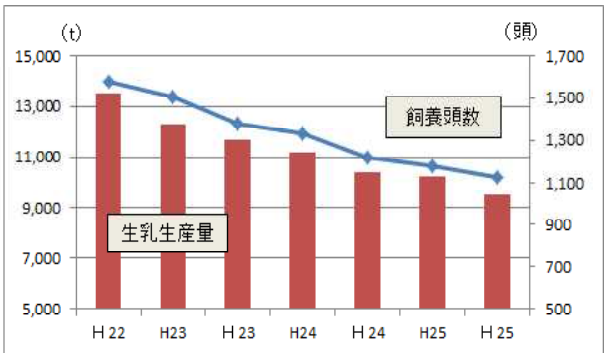

図2　中部管内の飼養頭数と生産乳量乳量

継続性のある酪農産地を育成していくためには、酪農家の規模拡大も重要だが、高齢農家等の廃業を食い止めることが喫緊の課題となっている。

そこで、ちょっとしたきっかけで廃業しかねない高齢農家に対する経営維持に向けた普及指導活動を行った。

２　取組内容

2015年の後継者離農といった突発事項の発生により高齢の経営主夫妻のみの労働力となり、労働力不足から牧場での全ての管理が中途半端になり搾乳成績の急激な悪化を招いたＡ農家(経産牛頭数　102頭)（表１）に対し、高齢夫婦２人でも経営可能な状況に持って行くための経営改善に向けた指導を実施した。

表１　Ａ農家の経営成績

年		２０１４	２０１５	２０１６
経産牛飼養頭数	(頭)	114	108	102
生乳出荷量	(ｔ)	896	859	703
経産牛１頭当たり乳量	(kg／頭)	7,893	7,923	6,910
体細胞数	(万／ml)	22.5	33.8	39.0

（１）繁殖成績改善に向けた取組

離農した後継者が主に担当していたため経営主夫妻の理解が充分でなかった飼養牛の管理記録を経営主夫妻でも理解できる形に整理した上で、その管理記録を基に大分家保の妊娠鑑定を行ってもらうなどして繁殖成績の改善を図った。（写真１・写真２）

繁殖成績の改善は、普及指導員が支援しながらもＡ農家自身が更なる情報の収集、そして情報分析に基づいた繁殖管理をしっかりと継続していけることを主眼とした指導を行った。

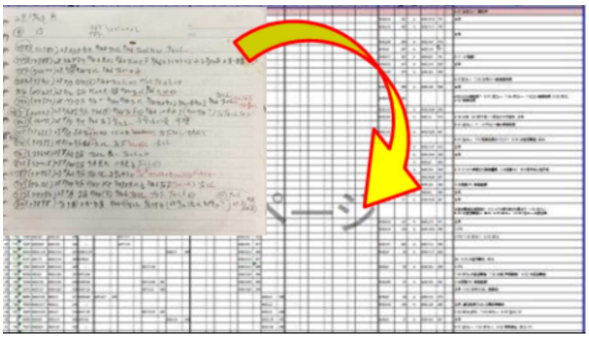

写真１　記録の整理・分析

写真２　妊鑑による情報収集

（２）乳質改善に向けた取組

搾乳立会や大分家保による乳汁検査（写真３）により乳房炎牛の確定等の要因を確認した後、乳房炎牛への具体的対応策やバルク室の整理・整頓・清掃（写真４）、牛床の床変え等の指導を行った。

写真３　搾乳立会

写真４　バルク室の清掃

しかしながら、これらの指導に対するＡ農家の反応は薄く、改善に向けた取組に関しても積極性・正確性が低かったことから、効果についてもあまり認められなかった。
そのため、次第にＡ農家自身のモチベーション、やる気が低下し、消失していった。
以上の取組については、一般的な経営体に対して効果の上がった手法ではあったが、ちょっとしたきっかけで廃業しかねないＡ農家に対してどのようなアプローチをとれば良かったのか、やる気を引き出し改善に繋がげて行くにはどうすれば良かったのか、普及指導活動においての課題となった。

３　高齢農家等への普及指導活動

（１）信頼関係の構築

アプローチ方法の模索のため、まずはＡ農家に率直な話を聞いてみると、指導側に対して不安や疑問を伝えていなかった、改善目的や改善手順を理解しないままＡ農家なりに努力は行ったが、成果が付いてこないので、『努力しても私たちにはできない』と改善自体を諦めた、といった内容の話を聞くことができた。
これは、長年酪農に従事しプライドを持っているＡ農家が指導側に『判らない』という本音を言える雰囲気を作れなかった、つまりそれだけの信頼関係ができてなかったこと、改善の見えないＡ農家の努力を認めていないことを見抜かれていたことなどの指導側の要因が、Ａ農家の改善に向けた取組への積極性や正確性を低下させる原因となっていたことが示唆された。
つまり、信頼関係が構築できていなければ、指導しても無駄ということだった。
そこで、どうすれば信頼関係が構築できるか考えたが、まずはＡ農家が努力をしていることを認め、意思疎通を図る取組、つまり会話を続けることにした。
その結果、時間はかかったものの普及指導員は味方である事を理解してもらい、『この人の話なら聞いてもいいかも』と思ってもらえる信頼関係を築くことができたと感じられるまでになった

（２）やる気を引き出す

信頼関係が築けたと感じた後経営改善に向けての指導を再開したが、Ａ農家との会話の中で全ての改善項目を同時に取り組むことに対しては、できるかどうかの不安感や焦燥感等のあることが感じられた。
そこで、改善の課題を『繁殖成績向上』と『乳質の向上』の２つの大きな課題にしぼり、改善策をそれぞれの課題ごとにＡ農家が理解できる形で整理し、優先順位と取り組む順番を明確化した。
このことにより、Ａ農家の理解が進み、『できそうにない』と思っていたことを『できそう』と思えるように誘導することができた。

４　結果

順序立てた普及指導活動を積み重ねたことにより、Ａ農家の改善に対するやる気が強くなり、『知りたい』そして『やってみよう』といった意欲が向上していった。
繁殖について基礎から勉強したり（写真５）、搾乳手順を示した資料をパーラーの目に

付くところに張って常に意識するなど、普及指導員や関係機関に『わからないこと』を次々聞くようになっていった。また、『知りたい』と言う意欲が向上するにつれ、今まで牛任せ・他人任せだった繁殖管理にも積極的に関わるようになり、搾乳手順の見直し（写真６）、搾乳機器の点検、バルク室の清掃なども率先して実施し、これらの取組を継続して行うようになっていった。

写真５　繁殖成績について

写真６　パーラーでの搾乳衛生指導

Ａ農家の意欲的な改善の取組によって、平均経産牛頭数は減少している中、分娩頭数は増加し（図３）、体細胞数も現在は減少傾向に転じている（図４）。

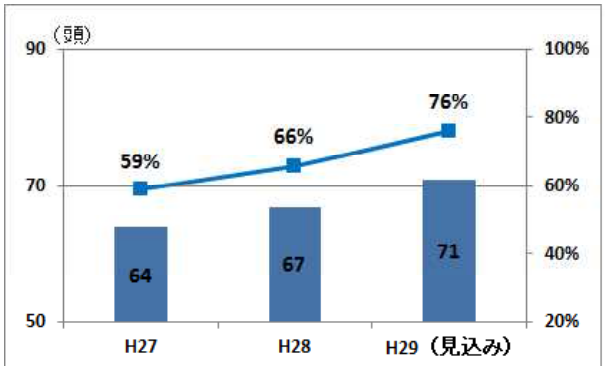

図3　分娩頭数と生産率の推移

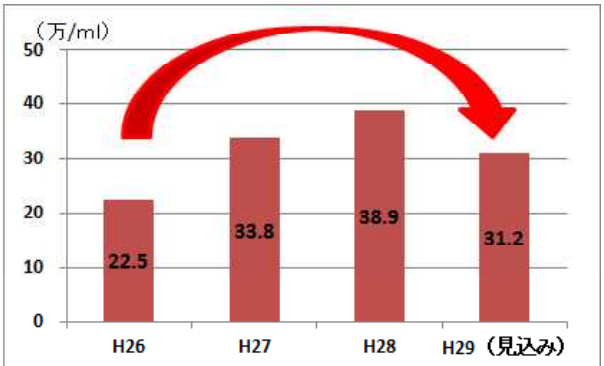

図4　体細胞数の推移

５　考察

今回のＡ農家への普及指導活動では、まずは心のケアをし、指導側と農家側の信頼関係の構築が第一の課題であった。信頼関係を作った上で、抱えている課題を整理し、どういった改善が必要なのか農家が理解して始めて、具体的な改善に向けての普及指導活動に入ることが出来た。

改善指導には様々な関係機関が関わるため、改善に向けたスケジュール感や目的を関係機関全体で共有する事、農家と関係機関の良好な関係構築を始め、改善の進捗状況や、農家がどこで躓いているのかを確認しできるまで一緒に考える等、普及指導員が担う役割は多岐にわたっている。これらの取組を継続して実施していくことが農家のやる気を引き出すことに繋がったと考える。

今回のＡ農家での普及指導活動は、『できそうにない』を『できそう』に、『できそう』を『できた』に変える、農家が改善に向けたモチベーションを高めていくプロセスの中で、普及指導員がいかに密接に関わっていくか、示唆に富むものであった。

高齢農家の中には、長年の経験から知識や技術のわからない部分を尋ねることに消極的で、改善へのモチベーションが低い農家も存在する。そういった農家にこそ、普及指導員が農家の努力を見つけて褒め、心のケアにより信頼を獲得すること、農家と関係機関の仲を取り持ちながら、農家の理解度に合わせた指導を行っていくことが重要であると考えている。

改善に前向きに取り組めるかどうかは、農家のモチベーション次第であり、農家との信頼関係の構築、成功体験によるモチベーション向上、高齢農家でも『できる』と思える普及指導活動が、農家の廃業を食い止めていくことに繋がると考えられ、今回の取組のポイントは以下のとおりと考える。

○　高齢農家等の経営維持に向けた取組のポイント
①　農家の信頼獲得のための農家訪問（何でも話せる環境づくり）
②　関係機関との情報共有（県酪農協・家畜保健衛生所・市等）
③　関係機関との役割分担（ほめる・だめだし・精神的なケア）
④　農家の理解度に合わせた指導とＰＤＣＡサイクルの活用

最後になるが、Ａ農家はまだまだ改善の途中であるため、今後もＡ農家が少しでも長く酪農を続けられるよう、指導を継続していく所存である。